ふるさとの森
土佐堂ケ森物語

森の巨人百選
桧仙人

西土佐郷土の森
天然ヒノキ群落

虫木林道

700m

お堂建立時に植えられた樹令500年のヤブツバキ。常緑樹の間の花木が他、彩の世界を演出。

堂ヶ森山頂からは土佐西南地域に幾重にも連なる山並が一望できる。
先人が汗を流し、山の頂まで手入した森林資源を活かし、後世につなげ、守ろう。

500年のあいだ、多くの旅人や商人、馬子、領主や家臣らが往来した往還道。
今はその役目を終え徐々に元の森に戻りつつある。
八里三十八町(35.161km)
厂史の道、文化の道
緊急時の迂回路としても復元が待たれている。

四万十川の豊かな流れは森に降った一滴からはじまる。
清流の姿には、山間に生きる人々が、山や田畑を守り、保全している恩恵が色濃く反映されている。

一里 3.927キロ
一町 109.08メートル

全体図

北
上山郷
大井川
藤ノ川
枝ケ尾山
野々川
(不明)
下山郷
堂ケ森
野々川山
前地蔵
桧尾山
立石山
(不明)
野地
竹屋敷
(竹屋敷まで上山郷)
掃除谷
藪岡
中村

カナクギノキ

ヤブツバキ

856.9m

源流
山頂からは周囲の山並や四万十市街、太平洋も望むことができる。
四万十川の母の山。

お堂周辺は天然林。原生植生である照葉樹林の葉がだいにそよぐたび、やさしく光る。

毎年5月5日は縁日の大祭。
藤ノ川、大井川、野々川、竹屋敷を中心にたくさんの善男善女が登山し山麓全体の安全や平穏無事、農林漁業の振興や四万十川の保全、そして将来を担う子どもたちの健やかな成長を祈願している。
名行事、堂ヶ森山林部によるちびっこ相撲、女相撲が祭に花を添える。

堂ヶ森の由来

1468年(応仁2年)関白の一条教房が応仁の乱を避け京都から荘園のある土佐幡多庄(中村)へ下向する。
一条公は中村を中心に東西南北に通る道路を開設する。
これが中村~藪岡~竹屋敷~上山郷(十和)を結ぶ八里三十八町の人馬道である。
文明七年(1475年)3月24日、足摺金剛福寺の七地蔵一体を拝授し、道節で最高峰の山にお堂を建立し、安置した。
お堂にちなみ、この山を堂ヶ森と呼ばれるようになる。
その後 大正6年、郡道に昇格。
昭和20年、軍部によって改修。「この道が完成したら戦争に勝てる」と住民が総動員された。
昭和45年、野々川中村、竹屋敷~藤ノ川の峠越林道開通する。

アセビ　ユズリハ　アカガシ　ヒサカキ

前地蔵

堂ヶ森を中心に東西南北に四体の前地蔵が示されている。現在、大井川、竹屋敷の二体が不明。

ここから急坂1000m

お地蔵さまの由来

一条教房公が、幡多一円の安全を祈念して一番高いところから見守って頂くという願いをこめて金剛福寺の七地蔵のうち一体を拝授して安置した。(ほん中のお地蔵様)
別名
「願かけ地蔵」とも呼ばれ勝負ごと、就職、五穀豊穣、選挙、進学、病気平癒などにご利益がある。
※必ず金剛福寺の方向を向いている。

藤ノ川のスンコサイチが夜になるとこのお堂でお地蔵様とさい銭をかけてバクチを打っていた。

野々川峠より	約2000m
桧尾峠より	1300m
郷土の森より	1500m
虫木林道より	700m

野々川峠

200m

2011年
国際森林年

至中村

一条氏家紋「下り藤」

この道は磨が開いたさよ。
藤の花が咲く頃はこのあたりがもっともあでやかに巻絵のような森の姿を見せてくれる。

桧尾峠

1,300m

その昔、竹屋敷の庄屋さんが重病を患った。
「治ったら四国八十八ケ所を背負って巡礼します」との願をかけ、願いが叶い完治。
約束どおりお地蔵様を背負って八十八ケ所まいりをする。

八十八ケ所を巡礼したお地蔵様はこの願かけ地蔵様、唯一体だけである。

立石山に一条公が馬をつないだ「馬つなぎの松」があったが大正時代、落雷で枯れた。

水と緑を守る会・堂ケ森奉山会
(大井川・藤の川・竹屋敷支部)
四万十森林管理署